

**神奈川県**  
**保険医新聞**

発行所 神奈川県保険医協会 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2 (TSプラザビルディング2階)  
電話045-313-2111(代表) F.A.X 045-313-2113 横浜中央郵便局私書箱第319号  
購読料 一部300円(会員の購読料は会費に含まれています) 発行人 田中麻衣子

診療報酬改定に伴い、事務局が繁忙期となるため、下記期間は電話による問い合わせ時間を変更いたします。

会員のみなさまへ  
おしらせ

2026年4月1日～同年7月末日まで(予定) (現行)9:00～17:00 →(変更後)9:30～16:00

なお、診療報酬改定については当会ホームページに「診療報酬改定特設ページ」を設けています。よく寄せられるご質問や、疑義解釈などを随時掲載していきますので、ホームページも是非ご活用ください。

神奈川県保険医協会

**神奈川県保険医協会会員数**  
(3月18日現在)  
**6,526名**  
医科：3,960名 歯科：2,566名  
※協会未入会の方をご紹介ください。  
ご連絡は、協会組織部まで。

「薬の保険外し」法案を閣議決定  
**薬剤5割負担**  
一部保険外療養 日常医療に「特別の料金」

「薬の保険外し」を含んだ健康保険法等改定案が3月13日に閣議決定され、国会に提出された。鼻炎、胃痛、痛み止め、肩こり、風邪症状など、日常的な医療に用いる医療用医薬品の一部について、「特別の料金」（薬剤料の4分の1）を上乗せし、患者負担を求めらるることになる案が盛り込まれた。

その名は「一部保険外療養」。市販薬（OTC）と代替性を口実に、77成分約1千100品目の医療用医薬品を、患者の薬剤負担を約5割とする。患者負担が増えるが医療機関の収入が増えるわけではない。むしろ受診控えが懸念される。政府は来年3月の開始を目指す。

当制度は、保険外併用療養の第四類型に位置づく。「要指導医薬品又は一般用医薬品との代替性が特に高い薬剤を用いた療養」その他（中略）のうち一部を保険給付の対象としないものとする療養」とされた。つまり、代替性の高い薬剤のみに限定はされていない。

医療情報部は2月19日、「オンライン請求システムにおける医療DX関連アンケート表示の運用改善に関する要請書」と題した書面を、藤田倫成部長名で社会保険診療報酬支払基金理事長あてに提出した。

これは社会保険へのオンライン請求時に直接関係のない医療DXに係るアンケートが表示され、「回答しない」を含め「何らかの回答」をしないとレポート請求できないことなどに対応し、円滑に行われるべき請求事務の負担になっているとして、回答操作を必須としないことなどを求めた。オンライン請求が実質的に強要される中、協会には会員医療機関からたびたび不満が寄せられており、その声を代弁するため医療情報部として対応を行った。

要請書では、保険医療機関における診療報酬の請求事務を、「法令に基づく義務的手続で、その遂行は円滑に行われるべきもの」であり、「アンケートへの対応を必須とする現行の運用は、業務負担の増加や医療機関職員同士の不要なトラブルのもとになりかねない」と指摘。

その上で、▽オンライン請求時のアンケートへの回答操作を必須としないこと、▽アンケートを実施する場合メール等での連絡とし、請求作業とアンケート回答を明確に分離することなどを求めた。

なお、現時点で支払基金から同要請書への連絡は届いていない。

**円滑な請求のため必須化撤回を**  
オンライン請求時のアンケート回答

矛盾が生じる可能性が高い。保険医療から一部を保険外にする仕組みが、制度化されることとなる。患者負担を事実的に拡大する「打ち出の小槌」となり得る。「特別の料金」の計算方法は、長期収載品の選定療養化で薬剤10割超負担が出現したものと同様の、薬価点数計算ルールを用いると想定される。低薬価薬剤で

「子どもやがん患者、難病患者などには配慮措置が検討されている。国会提出に先立ち、自民党厚労部会では慎重意見もあり、再審査となった。他方で前のめりなのは維新だ。維新厚労部会ではOTC類似薬（医療用医薬品）の保険外範囲を確実に拡大させるよう主張する声があがった。こうした主張を部会長が法案に反映するよう努めることを条件に、法案への対応を一任。さらに翌日の政調役員会では政調会長に対応を一任し、法案審議の際に政府の姿勢を確認する方向だ。

健保法等改定案には、この他、▽高額療養費の年間上限の新設等、▽75歳以上の窓口負担に株式配当等の金融所得を反映させる仕組み、▽出産費用を保険で全額賄う新制度―が盛り込まれている。

**横浜支部 大人の社会科見学 “日産自動車工場”**  
**短時間・高品質の秘訣**

横浜支部は3月5日、大人の社会科見学「日産自動車の工場見学」を開催。日産自動車横浜工場で行い、11名が参加した。当日は、日産自動車発祥の地である横浜工場で、最新型のエンジンの組み立てラインを見学。ロボットと作業員がそれぞれ得意な作業を分担し、短時間で高品質のエンジンを生産している様子が間近で確認できた。

また、2025年8月に生産終了した高級スポーツカーGT-Rのエンジンの組み立ては、匠と呼ばれる職員によって手作業で行われていたということで、実際に二つの部品の隙間を、工具を用いて手の感触を頼りに調整する体験も行った。

日産設立時の旧本社ビルを再利用したゲストホールでは、日産自動車の歴史や歴代のエンジン、ミニチュアカーの展示を楽しんだ。

集合写真

エンジンの展示

**活動報告**  
quick reports

**東日本大震災かながわ追悼の夕べ**  
震災から15年  
ふるさとへの想いを語る

東日本大震災の犠牲者を悼み、避難した人の想いを繋ぐ「3・10東日本大震災かながわ追悼の夕べ」が3月10日に横浜市役所アトリウムで開催され、約250名が参加した。参加者はそれぞれ想いをキャンドルに手書きで綴り、犠牲者に祈りを捧げた。

ステーションでは、帰還困難区域である福島県浪江町津島地区の元住民の女性が、解体費用助成の期限が迫る中、後ろ髪をひかれる思いで自宅解体に踏み切った経緯を紹介。「ふるさととはもうない」と失った哀しみを吐露した。ステージではこのほか、被災地に残された家畜を描いた山内若菜氏(画家)によるトークライブや、篠笛演奏ウクライナ出身のカテリーナ氏によるバンドゥーラ(ウクライナの民族楽器)の弾き語りが行われた。

なお、同追悼の夕べは当会と反核医師の会(核戦争防止神奈川県医師の会)が例年賛同団体となっている。

当日の様子

**杏林往来**  
オリンピックでは様々なドラマが生まれる。今回の冬季オリンピックでは、親子二人三脚でメダルを勝ち取った選手もいた。冬のスポーツは親のサポートが欠かせない。スポーツができる環境や雪を求めて行かなければならないからだ。だから選手も両親やサポートしてくれた人に感謝を述べていた。もちろん選手が小さい頃からの練習、努力の結果でもある。心から敬意を表したい。今回ミラノ五輪は分散開催で行われた。新たな施設を作らず、費用を抑えられるだけでなく、雪を求めてという事情があったのだから。実際イタリアのスキー場には雪が少なく、運営ができなくなっているところがあるようだ。ミラノ五輪での人工雪の使用率は85%（北京五輪ではなんと100%）だったそうだ。現在冬季パラ五輪は3月の開催だが、雪が溶けて競技が困難なため、冬季オリンピックとともに前倒しの開催が検討されている。夏季オリンピックでの、マラソン競技の開始時刻の変更等も記憶に新しいところだ。今世界は、アメリカのバリ協定からの脱退など気温変動の改善から後ろ向きな状態がある。このままでは今後オリンピックだけではなく、我々の生活に多大な変化を及ぼすことは必至である。世界、国レベルも重要だが、やはり今一度我々ひとりひとりの環境に配慮した生活を送ることが重要だろうと感じた。

(AS)